

# 令和5年度 学校経営計画書

美作市立勝田小学校

## ○本校のミッション（使命、存在意義）

自然豊かな恵まれた教育環境のもと、永きに渡って（約150年）地域からの温かいまなざしに支えられ、勝田小学校としての歴史と伝統を築いてきた。学校統合から7年を経過した今も、地域の学校として勝田小学校に寄せられる期待はますます大きいものとなっている。特に、少子高齢化が顕著な校区にあって、本校児童が生き生きと活動する姿が地域の活力につながっている。こうした地域や保護者の願いをしっかりと受け止め、よりよい学校教育を通じてよりよい社会づくりをめざすという理念を共有し、地域に根ざした、地域とつながる教育活動を充実・深化させ、地域を愛し、地域から愛される勝田の子の育成を図ることが本校の大きな使命である。また、就学前教育と中学校教育との学びと育ちをつなぐ、小学校教育の果たすべき役割を踏まえ、子どもたちが自身の将来への夢や希望を持ち、将来を切り拓く礎となる確かな学力と豊かでたくましい心を培っていくことが本校の大きな責務であり、保護者や地域の期待に応えていくことになると考える。そのためにも、全ての教職員が高い使命感と自覚を持ち、主体的に日々の教育実践に励むと共に、地域や保護者、近隣の学校園、関係機関と協働した教育活動を重ねていくことで、本校の学校力をさらに向上させていきたい。

## ○内外の環境分析

### 1 内部環境

○小規模校のため児童一人一人に寄り添い、特性や課題を踏まえた個に応じた支援や指導ができる。

○明るく純朴で、諸活動に真面目に、意欲的に取り組もうとする児童が多い。

○ベテランと若手の教職員が協働し、切磋琢磨しながら個々の資質・能力を発揮することができる。

△少人数でクラス替えもなく、固定化された人間関係の中で生活することが多く、人間関係形成力や課題解決力が高まりにくい。

△読解力や活用型の学力には依然として大きな課題がある。また、学年によっては上位層の児童が少なく、基礎学力に課題がある児童も少なくない。

△自信や活動意欲は少しずつ高まってきているが、自己肯定感は依然として低い傾向にある。

### 2 外部環境

○保護者や地域は本校教育方針に対して理解があり、教育活動にも協力的である。

○地域の文化や歴史、自然などの教育資源、ボランティアや外部講師等の人材に恵まれている。

△経済的な理由や複雑な家庭環境のため家庭教育力が低く、児童の課題解決に向けた協力が得られない家庭もある。

△核家族や共稼ぎの家庭が多く、児童への関わりに希薄な面も感じられる。

## 教育目標 「夢を拓き、確かな学力と豊かな心、たくましく生き抜く力を育む」

～学びをつなぐ 心をつなぐ 未来へつなぐ 勝田っ子の育成～

### 1 目指す学校像

- ・児童が学ぶ喜びを実感でき、個々のよさを発揮できる、楽しい学校
- ・児童が自信を持って夢を育み、家庭や地域と協働する、開かれた学校
- ・教職員がやりがいと誇りをもち、生き生きと取り組む、活力ある学校

### 2 目指す児童像

- ・かんがえる子・・・自ら考え、判断し、解決する（知識・技能）（思考力・判断力・表現力）
- ・つよい子・・・粘り強く、集中して取り組む（学びに向かう力）
- ・たすけあう子・・・互いを認め合い、励まし合う（人間性）

### 3 目指す教職員像

- ・日々の教育実践を大切に、子どもに寄り添い、ともに学び、育つ教職員
- ・教育のプロとしての熱意と誇りをもち、保護者、地域に信頼される教職員
- ・主体的に自己研鑽に励みながら、組織の一員として認め合い、協働する教職員

学校経営目標 「一人ひとりが大切にされ、笑顔とやる気があふれる学校づくり」  
～児童理解（つながる）・徹底（やりきる）・向上（高める）～

指導の重点 <共通理解と取組の徹底>

(1) 学力と体力の向上

校内研究テーマ『だれもが楽しいと感じる授業づくり』 ～算数科の授業を中心にして～

- ・授業改善の徹底（授業力の向上）  
主体的、対話的で、深い学びを促し「わかった」という手応えが実感できる授業づくり
- ・家庭学習と授業をつなぐ ICT 活用の推進（2学期から毎日持ち帰り）
- ・特別支援教育の視点を明確にした公開授業研究の推進
- ・表現力を育てる「言語活動」の充実（ふり返りを書く時間の確保）（ICT 活用促進）
- ・補充学習の取組の徹底（朝学習・放課後学習）及び補充学習強化月間の計画・実施
- ・家庭学習の習慣化（基礎・基本必須課題、選択自主学習の工夫）
- ・読書活動の充実（言語能力、読解力の育成）
- ・運動に親しみ、目標を持ち年間を通して取り組む体力づくり

(2) 落ち着いた学習環境づくり

- ・積極的な児童理解「寄り添い、変化を見取り、認め、褒める」
- ・児童相互が認め合い、高め合う学級集団づくり（思いをつなぐ学級経営）
- ・言葉を大切に、自分の思いを表現する力の育成
- ・特別の教科「道徳」を軸とした「道徳教育」「人権教育」の充実
- ・教育相談の充実（i-check・各種アンケート等の活用、SC・SSW との連携）
- ・未然予防と早期対応を基本とした危機管理・生徒指導（報告・連絡・相談・確認の徹底）
- ・保護者との連携強化（細やかな情報共有と丁寧な対応）

(3) 特別支援教育の充実

- ・細やかな情報共有と環境づくり
- ・特別支援学級を核とした個に応じた指導・支援体制の構築
- ・特別支援教育に対する理解の促進（児童・保護者・職員）
- ・校内委員会の活性化と関係校・関係機関との連携促進

(4) 自己肯定感の育成

- ・地域と協働した多様な体験や学びづくり（地域学習・支援ボランティア・外部講師）
- ・児童会や委員会活動の活性化（望ましいリーダーの育成と主体的・自治的な活動の考案）
- ・意図的な異年齢及び異学年での交流活動（縦割り班、兄弟学年）
- ・人権意識や規範意識の醸成、非認知能力の育成

(5) 「15の春プロジェクト」の推進

- ・小中一貫教育カリキュラムの推進（「学びの時間」・合同行事を生かす）
- ・保幼小連携及び小小連携の促進（スタートカリキュラム・情報共有・園と連携した就学指導）
- ・キャリア教育の充実（夢講座）
- ・「学びと育ちの連携表」の共通理解と保護者への啓発

(6) 校内協働体制づくりと人材育成（認める、支える、高める教職員集団）

- ・主体的、組織的に、徹底する（細やかなPDCAサイクル）
- ・各分掌「チーム」での創造的な活動による組織の活性化
- ・「子どものために」という基本姿勢（「楽しむ」発想と熱意）
- ・校内OJTを中心とした人材育成の推進